

仮想通貨から考える新しい制度

笠谷奏乃¹ 関野克² 松本沙由梨³

要約

本稿の目的は、近年問題になっている大学生における奨学金問題を VALU という新たな指標を用いた価値のサービスを用いて新しい学費制度を提案し、同志社大学内での学部生に対するアンケート調査を実施後、成績や出席頻度などの要因が学費制度の選択にどのように影響及ぼしているかを検証することである。アンケート結果に対して重回帰分析を行ったところ、少なくとも現在の成績(GPA)が学費制度の選択に影響を与えていることが明らかになった。

JEL 分類番号 : D01, I20

キーワード : 仮想通貨, VALU, 奨学金, 学費, 学費変動制

1. はじめに

1.1. 仮想通貨

インターネット技術の発展が目覚ましい現代において、「仮想通貨」が非情に注目を集めている。仮想通貨とは「インターネット上の理論をもとに 2009 年以降、価値を持った電子データとしてネット送金や決済に使われている。(朝日新聞, 2018)」ものであり、この他にもリアルタイムでの送金が可能、海外送金が法定通貨で送金するよりも安いという利点がある。また、最近では投資目的での保有も増えている。このように仮想通貨には様々な性質があることで、多様な使われ方がされている。中でも様々な性質を持つ仮想通貨にもまた様々な使い方がある。資金調達方法の一つとして、資産運用や価値の交換、買い物や飲食時の支払い、寄付、プレゼントなどが挙げられる。仮想通貨を用いたサービスとして我々が今回注目したのは、「VALU」という自らの価値を仮想通貨(模擬株式)として発行し、それらを交換し合い、支援しあうというものである。ここでの“自らの価値”というのは、取引される数によって影響を受けるものであるが、ソーシャルメディアのフォロワー数に応じて価値が変わっていく。つまり、その人の価値がその人の値段を決定する。また株主には優待があり、時価総額上昇時に見返りなどを受け取ることができるのであ

¹ 同志社大学 笠谷奏乃(kasatani kanano) kanaannno@gmail.com

² 同志社大学 関野克(sekino katsu) amft25.dreams@ezweb.ne.jp

³ 同志社大学 松本沙由梨(matumoto sayuri)sayumtmt24@gmail.com

る。

1.2. 学費と給与

私たちは現在大学生として勉学に励み、日々生活をしている。国公立大学や私立大学、専門学校等様々であるが、共通することといえば、学費の支払いである。平成8年から平成28年までの授業料、入学料の推移は全体的に増加傾向であることがわかる。年々払わなければいけない学費は増加傾向にあるといえる(独立行政法人日本学生支援機構, 2018年)。一方で平成7年から平成28年における平均給与の推移は減少傾向にある。(独立行政法人日本学生支援機構, 2018年)。上記の2点から一般家庭が大学進学や大学入学での学費を支払うことは困難になってきていることがわかる。このような状況にある場合、奨学金に頼らざるを得ないだろう。奨学金はそのほとんどが給付型ではなく、貸与型であるために、奨学金は必ず返さなければならないために借金とほぼ変わらないといえるであろう。さらに奨学金の返済は大学卒業後すぐに始まるために、先ほどの平均給与のデータが示しているように奨学金の返済が困難になり、新たな借金をするなど経済的負担が大きくなっているのが現状である。

1.3. 学費変動制

ここで私たちは、このような奨学金問題に対して新たな学費制度を提案する。それは新たな価値のサービスを用いた「学費変動制」である。学費変動制とは、大学の成績に応じて学費が変動するという仮想的な学費制度である。この新たな仮想的学費制度の要点は、その人の成績次第で学費が上下する点である。良い成績を取れば取るほど払う学費は安くなり、悪い成績を取ってしまうと支払う学費が高くなるという性質を持つ。これに対して従来の学費制度を「学費固定制」と呼ぶことにする。

2. 仮説

2.1. 仮説

第1章では新たな価値のサービスを基とした仮想的な制度「学費変動制」を提案した。我々は、大学生が自分の能力に応じて金銭的なメリットを享受するために「大学の成績(GPA)が高い人ほど学費変動制を選択する」という仮説を立てた。尚、ここで成績としてGPAを評価基準とした理由は、将来的には様々な要素が価値を決める指標となるが、我々にとっても身近であり、理解しやすいという点でGPAを採用した。

2.2. アンケート調査

今回のアンケート調査における情報を以下に記載する。

- 調査機関：8月18日(土)～8月26日(日)
- 調査方法：GOOGLE FORMによるアンケート調査

- 調査対象：同志社大学の学部生
- 回答者数：65人

アンケート項目としては「誰が学費を払っていますか」、「あなたの授業への出席頻度を教えてください」など全9項目を質問した。

2.3. 分析

今回の分析では重回帰分析を採用した。目的変数を「あなたはどちらの学費制度を選択しますか。」とし、説明変数をアンケートの質問項目である8種類の質問とした。分析結果は下記の図1のようになる。

表1 分析結果

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-0.158758137	0.311466399	-0.509711922	0.612369303	-0.783480618	0.465964345	-0.783480618	0.465964345
学費払っている人	-0.066601345	0.120434559	-0.55300858	0.582582721	-0.30816248	0.17495979	-0.30816248	0.17495979
学費を高いと思うか	0.165376867	0.112983496	1.463725883	0.149174968	-0.061239327	0.391993062	-0.061239327	0.391993062
入学ルート	-0.068567887	0.084814622	-0.808444171	0.42244905	-0.238684476	0.101548702	-0.238684476	0.101548702
GPA	0.212214541	0.059209142	3.584151626	0.000735827	0.093456043	0.33097304	0.093456043	0.33097304
出席点あり	-0.041315536	0.107310888	-0.385007867	0.701772354	-0.256553919	0.173922847	-0.256553919	0.173922847
出席点なし	-0.025624117	0.065803014	-0.389406432	0.698535835	-0.157608248	0.106360014	-0.157608248	0.106360014
バイト頻度	-0.08522067	0.089769629	-0.949326298	0.346763595	-0.265275744	0.094834404	-0.265275744	0.094834404
睡眠時間	0.045549006	0.107324162	0.424405885	0.672987689	-0.169716002	0.260814013	-0.169716002	0.260814013
下宿通学	0.052757464	0.12341142	0.42749256	0.670752522	-0.194774497	0.300289424	-0.194774497	0.300289424
サークル	0.016624075	0.123921648	0.134149887	0.893792177	-0.231931274	0.265179425	-0.231931274	0.265179425

図1の中央部分にあるGPAのP-値を確認すると0.000735827となっており有意水準1%とした場合でも下回ることが判明した。この結果から「GPAは学費制度の選択に影響を与えている」といえる。係数を見た場合、「GPA」の項目のほかに「学費を高いと思うか」も2つが大きな値を示していることがわかる。しかし「学費を高いと思うか」のP-値を確認すると0.149174968と有意水準10%の場合でも下回らなかったために適切な値でないと判断した。

3. おわりに

3.1. 研究の限界を踏まえた展望

本稿の目的は、近年問題になっている大学生における奨学金問題を新たな指標を用いた価値のサービスを用いて新しい学費制度を提案し、同志社大学内でのアンケート調査を実施後、出席頻度や成績などの要因が学費制度の選択に影響しているかどうかを検証することであった。アンケート結果に対して重回帰分析を行い、分析結果からは成績(GPA)が学費制度の選択に影響を与えていることが明らかになった。しかし、今回のアンケート調査の際、学費変動制に関する質問をしたが、「学費の変動幅」については深く言及していな

かったために学費の変動の幅のイメージに差が出た可能性がある。よって今後の研究においては、具体的な金額を設定することでさらに精緻な研究を目指していく。

引用文献

独立行政法人日本学生支援機構，2018。日本学生機構について（平成30年3月）

[HTTPS://WWW.JASSO.GO.JP/ABOUT/IR/MINKARI/_ICSFILES/AFIELDDFILE/2018/03/20/30MINKARI_IR.PDF](https://www.jasso.go.jp/about/ir/minkari/_icsfiles/afielddfile/2018/03/20/30MINKARI_IR.PDF)

B4 現代教育基礎学系 斎藤ユウゴ「重回帰分析」[HTTP://COGPSY.EDUC.KYOTO-U.AC.JP/PERSONAL/KUSUMI/DATASEM09/MR.PDF](http://cogpsy.educ.kyoto-u.ac.jp/personal/kusumi/datase09/mr.pdf)

村瀬洋一，2009，「SPSSによる重回帰分析」

<http://www2.rikkyo.ac.jp/~murase/09kaiki.pdf>